

# 多摩市立図書館本館再構築基本構想 ヒアリング／小中学校学校司書さんの会

多摩市立図書館本館再構築基本構想

学校司書会／第2回ヒアリングノート

2016.09.23.

○多摩市の学校図書館のこと、お話を聞かせてください。

○あたらしい中央図書館とその基本構想について、  
学校司書のお立場でお考えになることを聞かせてください。

日時：平成28年9月23日 全員研修会での学校図書館の 出席：学校司書さん2

4人、図書館のご担当3人、 多摩市立

図書館：中島館長、笹原 寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

当日のお話

①こんな学校図書館を考える本を、もうお読みにになりましたか。・・・簡略なブックトーク。

②多摩市の学校の児童生徒は、豊かに本に出会えていますか。・・・多摩市と他市の状況「資料費と利用冊数」

③あたらしい多摩市の中央図書館が、生まれようとしています。・・・司書さんから後日にご意見カードを頂きました。

④公共図書館と学校図書館、ともに「図書館のめざすもの」とは何でしょうか。

●以下、多摩市立小中学校の学校司書さんからのご意見作文

## 01、多摩市の小中学校図書館の課題研究／これまでの活動。

①図書館利用リテラシー、本との出会い、公共図書館連携、は。②教育（課題）支援、教員支援、の状況について（研修体制は）

- 小学校から
  - （児童が）なかなか公共図書館に足がむかない。
  - 学校の読書週間に合わせて、公共図書館もイベントに参加できないか。
  - （児童が）自分から地域の図書館に行けるようになってなんとか支援したい。なにか良い方法はないか？
  - 図書館利用の基本的なことは年度中に各学年2～3度繰り返し教えている。
  - 特に分類法は低学年のうちから身に付くよう指導を繰り返している。
  - 読書の時間は週一で、低～中学年は読み聞かせを、高学年は本の紹介をして、なるべく多くの本、特に文学を読むようにうながしている。
  - 公共図書館とは団体貸出時、年に15回程。司書のやり方でこの回数はずっと上がっている。
  - とても勉強になる研修会だった。
  - 調べ学習に関して良くできていると思うが、公共図書館にも、資料が大量にあるわけでもなく、教科書通り進むことから、ある程度予算がついている学校は調べ資料も自校で購入し困難な学校に配慮している。
  - 教員からの依頼は「クラス対応」であるかと問われる。
  - 大人が読む姿を見せて、教材を研究（ノートの取り方など）する時、検索して伝えた書名を、書誌で手渡しできればと思う。負う考えると学校図書館が公共図書館の窓口になることは魅力的だ。しかし学校の地域開放は防犯に反し、授業時間中の市民利用は難しい。
  - 利用学習は、年度初めに利用のしおりを配布。貸出の説明、読書だけでなく調べ物に利用できることを伝える。担任の働きかけで、調べ利用で休み時間に訪れる児童がいる。ルールを守る、マナー、モラル面での課題が多い。

- 研修会資料でも読書体験の地域差について触れられたが、本校では、図書館利用は学校図書館が始めてという児童が多い。
- 休み時間、貸出はあるがほとんどの児童は学校に本を置いておき、朝読書などで読めれば読む形。平常は家に持ち帰り読書しない。読書の習慣はなかなか根付かず、読書以前に取り組むべき課題が非常に大。
- 読書習慣定着のために揃えたい読み物と知的好奇心を引き出す調べ物資料を児童の現状に合わせて購入したいが、常に予算不足。

- 中学校から
  - 現状の中学校図書館の蔵書は、限られた予算で購入なので、各学年の総合学習で扱う調べ学習の本は市立図書館から借用している。
  - しかし書写や富士見高原周辺の学習など、本自体、新刊、冊数が不足。
  - 学校図書館は副本が少なく、公共図書館を調べ学習で利用している。
  - 夏休みの読書や調べの課題で、生徒は他の本とも出会いがあるようだ。
  - 急な、多くの資料の借用依頼、迅速柔軟な公共図書館の対応に感謝。
  - 週3回は近隣市にない連絡便運行、際限ない副本貸与、直前の依頼に対応、の3点は、教員の図書室利用、生徒の学習への支えとなっている。公共図書館からの支援が効果を上げている。
  - 他方、教員の下調べの需要・研究対象については「団体貸し出し」が認められていない。学校図書室を通じた教員支援策を改善して欲しい。
  - 生徒から所蔵の有無を聞かれたとき、学校図書館とともに市立の蔵書を調べる。予約状況に応じて、近くの聖ヶ丘図書館での予約で受け取れることを伝える。卒業後も身近な図書館をどんどん利用できる人に育ってほしい。

- 小学校から
  - 担任の意向を知り、読書の時間に協力することはないかと考えている。
  - 6年国語「やまなし」賢治の読み聞かせ、教科書に書かれてない人物像などを紹介。担任とのコミュニケーションがとれれば生きた図書だと実感した。
- 中学校から
  - 職場体験で生徒が関戸図書館を利用。
  - 団体貸出で、調べ学習の本を借用。（司書の選書時、教員のリクエスト時）
  - 2年前までブックトーク実践、調べ学習ガイドブックづくり、お便り・表示作成の工夫、各学校の取組事例の発表など、定期的に司書研修が行われていたが、一昨年から研修会の開催が少なくなり、公共図書館の方の参加もなくなった。
  - 本ともフェスタを通して、公共図書館司書に学校の取組を見てもらえるが、司書研修の時に懇親をかねて顔を合わせる機会が以前のように持てれば、学校図書館で行われていることを見てもらえる。
  - 調べ学習への、公共図書館の丁寧で迅速な団体貸出に助かっている。
  - 団体貸出は、公共図書館で予約が入った場合返却しなければいけない。学習途中や届いてすぐの返却依頼について、一般貸出と同じ二週間の猶予を適用してもらおうとよい。
  - 学校図書館システムに、検索のみの利用者用PCが1台ある。公共図書館の資料検索を生徒が自分で出来るようになると、図書館利用が活発になるだろう。また、各学校で予算上購入できない百科事典や新聞をデータで公共図書館が購入して、学校に配信ができないか。

## 02、学校図書館サービスと施設環境の将来像と課題、について。

①多摩市の学校図書館が成長していくために、なにが必要か。

- ・資料（全市MARC / 選書・共通装備 / 資料費 / 流通支援・・・）
- ・施設（資料世界表現 / ひろさ / 座席 / たまり場 / 地域開放?）
- ・教員・司書（開館時間 / 研修体制 / 教育への支援 / ・・・）
- ・児童/生徒の生活（利用状況、年間一人利用冊数、生徒の要望）

- 小学校から
  - 本を購入する予算が少ないため古い本が多く、子どもたちに手渡す本（新しい本）も少ない。
  - 調べ学習用の本はほとんど購入しないで、図書館の団体貸出しを活用している。その分、読み物の本を購入している。
  - 貸出冊数は伸びているが、読書力が本当についているのか？
  - 個々の読書力や傾向に合わせて本を紹介している。
  - 読めるのに読まない子、読むことが苦手の子は、司書教諭や担任と連携。
  - 資料費の充実(古い本が多い)を。
  - 施設の配置が重要と理解した。遠いプレハブ旧校舎から、新校舎では昇降口に近く移動して急に利用が上がる。
  - 市外から通勤の教員は市の図書館を知らない。全教員にカードと研修を。
  - 読書の時間はしっかり読書をする児童でも、夏休みの読書の宿題に苦労。児童は学校を出ると繁忙なので、学校でしっかり読ませることが必要。
  - 利用冊数は週一授業に貸出一冊と二冊では数字に大差がでる。
  - 貸し出し冊数を上げることは、一長一短ある。
  - やはり資料費は少なく、児童からの購入希望にも十分応えられていない。
  - 登校してすぐに図書館が開いていたら、本好きな子どもはきっと喜ぶ。

- 中休み昼休みのみでは、特に高学年は忙しくて来られない。低学年児童は、階が違うので来られないことになっています。7:50～8:20の30分間だけでも、教員あるいは地域の方に入ってもらえないか。（小学校の司書の勤務時間は9時から15時が多いのです。）
- 自校は図書館の位置が人目につきにくく、安全上、司書出勤まで閉鎖。
- 開館時間と研修について：話題に出た20年前の岡山市の学校図書館は、放課後利用もカバーでき、資料準備の時間も比較的多くとれるように勤務時間が確保されていた。また、研修も月1回。大部分の学校司書は非正規ながら熱意を持って活動できていた。そこに至る努力は並みではなかったと記憶している。他方で、労使間、学校司書同士にさまざまな軋轢、本来の仕事以外の厳しさも感じた。岡山市や近畿圏の先達の例を参考にしつつも、多摩市は出来ることから着実に、穏やかな改革を。

- 中学校から
  - 公共と学校の選書基準を同じにしたい。
  - 学校間の本の貸借移動に物流支援を稼働させたい。
  - 読売中高生新聞などは消耗品費でなく図書費で購入したい。（調べ学習で利用している。東京新聞は学校予算となっている。）
  - 図書室は静かにする場か、おしゃべりの場か？
  - 開館時間日数が少ないので、学校司書雇用を月給制に年収増を。
  - ライトバルなど生徒要望の選書と学校の基準(健全な教養の育成)の相反。
  - ほとんどの学校で読書の充足率は100%を超えているが古い本が多い。
  - 100%を切らないように廃棄を止めると図書費が増えない悪循環がある。
  - 多摩市の小中学校の年間図書購入費は全国平均の半分以下で、地方交付税がないので追加予算もない。もう少し図書費があると、読み物・調べの本がバランス良く買えると常々思う。（ちなみに文科省の計算式では充足率100%を越えるが、学校図書館協議会の基準で計算すると6～7割程度まで下がります。）
  - 「地域館をなくした後は学校図書館を窓口に地域開放を」という話が、数年前から聞こえるが、その構想は学校司書に正式ルートで入ってない。そのような動きがあるなら学校図書館の意見を十分に取り入れて欲しい。
  - 現在、学校間の図書資料の連絡便がなく、文書交換便や自家用車で対応。今後の需要の拡大が予想されるので、便の確保を希望する。
  - 研修資料で、各校の貸出冊数のデータがあったが、予算比較のないまま冊数を論じるのは残念だ。（※比較表では予算や生徒数なども記載あり）
  - 多摩市の司書たちは、皆それぞれ時間とお金をかけて、外部で、様々な研修を受け、沢山の資料を読んでいる。
  - 年間図書費は30～40万円で読書と学習にあてる資料費が少ない。新聞は買えず司書が個人で持ってくる。雑誌も買えていない。
  - 書架は不足し老朽化している。統廃合の書架ももらえなかった。
  - 図書室は、授業や委員会会議で使うので、地域開放は無理だ。
  - 学校司書は勤務時間に制限があるので、一時間目から閉館時まで開けられない。授業があるときは、開館調整が必要になる。
  - 聖ヶ丘中では、昼休みは70人程来館。生徒貸出冊数3849冊。教職員を合わせると4819冊。年間一人12.1冊。リクエストは多いが全ては購入不可。

- ②中央図書館が整備されたとき、どんな連携/支援を期待するか。
- ③全体再編後の地域図書館には、どんな連携/支援を期待するか。
- ※学校図書館とつながり一体の公共図書館になっているだろうか。

●小学校から

- 教材「これよんで」の内容が代わり映えなく子どもの食いつきが悪い。リニューアルしてほしい。
- 中央図書館は、アクセスの良い立地を希望する。
- 公共と学校図書館の連携は、今のままでもよくとれていると思う。
- クラスか学年に定期的な学級文庫の配送があると良いと思う。
- 調べ学習の本が新しく入っても、以前のように、1ヶ月ほど各図書館に振り分けず、一箇所で見られなくなった。どんな本が早くみたい。そういう研修もしてほしい。教科の専門教員も交えて意見を聞きたい。
- 地域図書館は、今まで通りの身近な図書館を期待する。
- 自分の小学生の頃は過疎地なのでBMを利用し、図書館に勤務してからはBM車で海岸線や山の学校に出掛けたが、土曜日の周回なので利用はいつも決まったメンバーだ。子どもがいる時間に本が来ないと意味が無い。多摩市は分館が多くあるので児童が行けるように思っていたが・・・。
- 学校で図書受取りは出来なくても、スーパーや学校でのブックポスト返却は可能だろうか。「もっと身近に」の一場所に組込まれたらと思う。
- 中央図書館が出来たら、専門知識のある図書館職員の配置を。
- 公共、学校両方の知識が得られるような研修や人的交流を。
- 全体再編後の地域図書館に、地域史、行事など地元情報資料の常備を。

●中学校から

- 団体貸出用の新刊本、読み聞かせ用特大絵本、紙芝居舞台、聖桜祭CDを。
- 学校図書館図書購入を公共の司書が選書するが、人気本には特別枠を。
- 各学校での貸出冊数統計を、地域ごとにしてほしい。(公共図と学校図)
- 希望する生徒に、中央館のバックヤードを見学させたい。
- 部活や行事で生徒は時間に余裕がない。読みたい本をすぐに借りたり読んだりできる近くの地域図書館が必要だ。高齢化社会にむかう状況を考えても、出来るだけ沢山の地域図書館が必要だ。
- 先日、ベルブまで生徒がでかけたが、生徒手帳だけの持参では利用登録が出来なかった。保険証など生徒はいつも携帯していない。所属の学校が示せば、本人申告の住所記入で登録をさせてもらえないか。
- 調べ学習への団体貸出、本ともフェスタへの参画、公共図書館には大変お世話になっている。

●研修とヒアリングについて

- 今回の研修の間の短い時間で「学校図書館へのヒアリングは済んだ」とされてしまうと、大変に残念だ。これは、私個人だけの想いではない。今後、市立図書館との連携はより一層重要になっていくと思う。
- 学校図書館の現場で働く者の声も丁寧に汲み取って、生徒たち、市民の方々双方にとって よりよい市立図書館を作って欲しい。

多摩市立図書館本館再構築基本構想 2016.09.23. ヒアリングノートの抜粋。メモ、手書きの意見、印刷された質問紙の回答が混在している。メモには「メモノート」「メモ」などと書かれている。質問紙には「01-① 図書館利用について...」や「02-① 資料費...」などの項目があり、手書きで詳細な回答が記入されている。また、印刷された質問紙の表紙や裏紙も一部見られる。

「調べ学習」へ図書館充実 東京・小平第一小 独自の資料索引作り

アクティブ・ラーニング(課題解決型学習)に必要な資料を子供たちが見つけやすいように、身近な情報センターとなる学校図書館の機能強化に期待がかかる。東京小平市立小平第一小学校では司書教諭を中心に学習テーマに応じて書籍や新聞記事を探し出す「パスファインダー」(ナビゲーター)のような仕組みを作り直されている。

●本や記事テーマごとに作成。こうして作った独自の「パスファインダー」は「学習・身体」「地球温暖化」「世界遺産」「オリンピック」「体の不思議」など22のテーマに及び、2011年9月に北野町の市立図書館に「自然」「歴史」「社会」「工業・技術」「産業」などに分けた小冊子「テーマごとに役立つ資料をわかりやすく紹介したパスファインダー」の冊子を手にした。『自然探検記』『探検記』などのキーワードから図書館にある記事や新聞記事、新聞の掲載記事など計20以上を紹介している。このステップを参考に、今年7月、同小に学校図書館の図書記事を切り取ってとじた「パスファインダー」(月間ニュース)が完成した。今年7月、同小に学校図書館の図書記事を切り取ってとじた「パスファインダー」(月間ニュース)が完成した。今年7月、同小に学校図書館の図書記事を切り取ってとじた「パスファインダー」(月間ニュース)が完成した。

学年	1	2	3	4	5	6
1	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
2	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
3	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
4	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
5	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
6	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊